

それぞれの中山間 チャレンジプロジェクト 事例集



佐賀県農林水産部農政企画課

〒840-8570 佐賀市城内1丁目1-59
TEL.0952-25-7115

中山間地域の挑戦
20の取り組み、5年の歩み

地域を動かす 仕組み、 集めました。

佐賀県では、中山間地域農業の振興を図るため平成30年度から「それぞれの中山間チャレンジプロジェクト」に取り組んでいます。これまで、各地域において「それぞれの」地域の特色を活かした取組を展開しており、その成果について取りまとめ、広く発信することにより、県内各地域への波及を図ります。

それぞれの 未来 につなぐ

それぞれの中山間 チャレンジプロジェクト 成果事例 2018 - 2022



糸岐地区



高柳集落



農事組合法人西梅野ファーム



さが中山間協働応援隊



唐津地域
果樹産地構造改革協議会



中田集落



ふるさと営農盛り上げ隊



川古集落営農組合



中鶴集落



栗並集落



白岩地区果樹試験組合



JA伊万里もも・すもも部会



株式会社北山神水川ファーム



JA肥育牛部会・生産牛部会



岳集落



嘉瀬ノ浦地区



石室集落



中若木集落営農組合



JAからつアスパラ部会

1. 佐賀市・株式会社北山神水川ファーム
2. 佐賀市・栗並集落
3. 佐賀市・中鶴集落
4. みやき町・高柳集落
5. 唐津市・石室集落
6. 唐津市・玄海町・JAからつアスパラ部会
7. 唐津市・玄海町・唐津地域果樹産地構造改革協議会
8. 伊万里市・中田集落
9. 伊万里市・有田町・JA肥育牛部会・生産牛部会
10. 伊万里市・JA伊万里もも・すもも部会
11. 武雄市・中若木集落営農組合
12. 武雄市・川古集落営農組合
13. 武雄市・農事組合法人西梅野ファーム
14. 江北町・岳集落
15. 白石町・白岩地区果樹試験組合
16. 鹿島市・嘉瀬ノ浦地区
17. 太良町・糸岐地区
18. 嬉野市・市としての取組
19. さが中山間協働応援隊
20. ふるさと営農盛り上げ隊



前例なき挑戦で、地域を活性化

集落 佐賀市／株式会社北山神水川ファーム

集落の概要

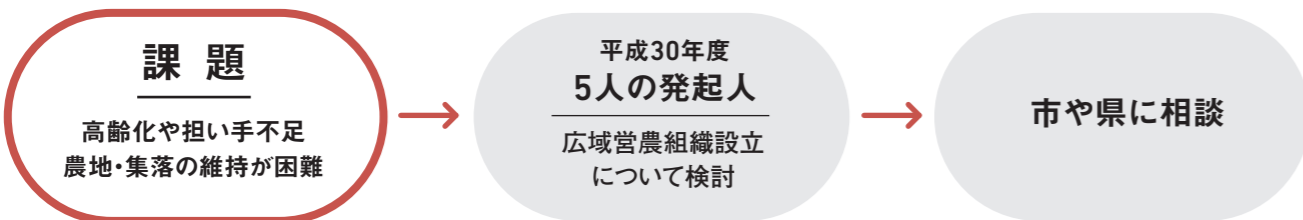
佐賀市富士町の北山西部地区(神水川流域)は福岡県と唐津市に隣接している地域。この地域では水稲を基本に、雨よけ野菜の栽培等が行われている。株式会社北山神水川ファームは神水川流域の中の5集落によって構成されている。

取組に至る経緯

高齢化や担い手不足が加速しているなか、何もしなければ農業就業者が減少するのは確実であり、既存の単独集落・機械利用組合単位の体制では農業・農地、ひいては集落を維持していくことが困難な状況にある。集落の枠組みを超えて、農業の支援や担い手の育成、地域の活性化に向けて取り組む広域組織の設立に向けて検討を開始した。

課題に対する取組内容と成果

①組織設立までの流れ



将来の人口推移の予測

専門家に北山西部地区の人口推移予測を依頼
持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏



主力世代である60代後半が元気な間に次世代定住と老後も安心な地域づくりが不可欠だと判明

この5年が勝負

集落間連携、農業の支援組織、担い手・オペレーターの育成に取り組む新たな組織の必要性

広域組織設立に向けた検討体制

設立準備委員会の設置 令和元年～各集落の代表を集め協議会の開催

準備委員会 14回 発起人会等 40回

- 内容
- 将来ビジョン作成
 - 中山間直接支払制度の加算金の検討
 - 法人化の検討
 - ドローンによる作業受託の検討
 - 県外講師を招いた研修会(農山村地域経済研究所 楠本雅弘氏)など

集落の声



田中 初治 社長

「法人設立段階では多くの苦労があったが、それでも農地やこの地域の風景を次世代へ残すために、自分たちがやらなければならないという強い意志があった」



八段 俊一 副社長

「この地域の基幹産業は農業と林業。そこを軸に盛り立てながら、収益を上げることが未来へつながると信じている」

②広域営農組織の設立・運営

株式会社北山神水川ファーム設立

県内初
中山間地域での
広域営農組織

事業内容

水稲や野菜の生産、ドローンによる防除作業の受託、草刈り作業の受託、林業作業の受託など

“株式会社”の理由

農業だけでなく、地域のニーズに幅広く応え、地域の活性化に結び付けるため

1. ドローン防除

令和4年度:水稲防除(除草剤散布含む)を80ha実施
防除の際には営農支援アプリ(アグリノート)による地図情報システムを活用し効率化



成果

初年度の令和3年度は赤字だったが、作業体制の見直しや、地区外からの受託などを行った結果、令和4年度は黒字の見込み

2. 草刈作業の受託

神水川流域の農家等にチラシなどを配布し、草刈作業の受託を実施



成果

作業オペレーターは登録制で、現在10名以上が登録
→令和4年度は黒字の見込み

3. 水稲・野菜の生産

- 水稲の省力化、低コスト化として密苗にチャレンジ
- 冬どりタマネギ(14a)などの野菜の生産にも意欲的にチャレンジ



成果

- 苗箱の必要数が従来の半分程になり省力化につながった
- 今後はドローンによる直播を検討

4. 林業作業の受託

佐賀市の里山林整備事業の一環で傾斜木等の危険な木の除伐を実施



成果

予想を上回る利益を上げるとともに、住民の生活を守ることもつながった

今後の課題と対応

「農地の借り受け」の本格化

- 法人の収益事業の拡大、正職員の雇用
- 各集落単位での農地のゾーニング
- 機械利用組合の統一



02

集落の未来へ、計画書を作成

集落 佐賀市 / 栗並集落



集落の概要

豊かな自然あふれる佐賀市富士町。古湯・熊の川温泉郷は県内有数の温泉地としても有名で、県内外からも多くの人々が訪れる地域。栗並集落は、富士町の標高約300メートルの位置にあり、他の中山間地域と比較しても、若い世代が暮らす集落。

取組に至る経緯

過疎化・高齢化により農地の維持、引いては集落機能の維持が困難となってきている一方で、富士町内では比較的若い住民が残っている集落である。だからこそ今、次世代へのバトンタッチが重要な課題となっている。若い世代にも地域や農業に関心を持ってもらい、将来的には地域の担い手として活動して欲しい、そんな思いをきっかけとして取組がスタートした。

基本データ

テーマ …… 話し合い
 取組内容 …… ビジョンの策定
 特徴 …… 地域住民の積極的な関わり
 戸数 …… 34戸
 面積 …… 43.4ha
 標高 …… 300m

課題に対する取組内容と成果

令和2年ビジョン策定委員会が発足

「くりなみ未来の計画書」の策定を目的とした



発足メンバー
9名
 営農組織の会長、老人会や婦人会など

ワークショップの実施



参加者
50名

「栗並でやってみたいこと」をメインテーマに進行

先進地視察研修



みやき町山田集落の取組「山田ひまわり園」を視察

「くりなみ未来の計画書」の作成



将来ビジョンの実現に向けた年次ごとの活動計画を整理

■主な項目

- ・若手の農機具の運転手育成
- ・住民交流のキャンプイベント開催 など

成果

- 計画書をもとにその実現に向けた取組がスタート
- 中山間直払制度の活用について話し合いが始まり、先進集落への視察を計画中

- 広報誌「くりなみ夢だより」を発行し、取組や進捗状況を共有



集落の声



ビジョン策定委員会世話人
藤田 和秀さん

「農業の後継者不足や交流が希薄になり、この集落の景観が失われるという危機を感じている。コミュニケーションを大事にして少しずつ前進していきたい」

「若い世代が参加したくなるような環境づくりと、若い世代と親世代の橋渡しに注力したい」



青年部
田中 利秋さん

今後の課題と対応

- ビジョン策定委員会を中心とした集落全体での持続可能な体制づくりとビジョンの実現
- 集落へのさらなる理解醸成や先進地視察研修の実施
- 農機技術研修会やスマート農業などをうまく取り入れた、若手が農業へ関わりやすい環境づくり



03

様々な課題に堅実な戦略で挑む

集落 佐賀市 / 中鶴集落



集落の概要

中鶴集落は佐賀市の最北端で、福岡市と隣接する三瀬村に位置する集落。集落内での繋がりが強く、自治会、集落営農組合、中山間直払制度集落協定、地域資源保全会、加工組合等の集落内の各組織が、合同役員会や事務会計の相互支援を行うなど連携を行っている。

取組に至る経緯

県単事業による機械導入をきっかけに平成10年に集落営農組合を設立。集落営農の法人化について、メリット・デメリットを検討した際に、中鶴集落の農家は全員が兼業であるため、儲かる取組の実施は難しく、法人化のメリットである税金対策や補助金の必要性がなかったため、法人化よりも地域を維持する仕組みづくりを検討することに。

基本データ

テーマ …… 共同化、省力化
 取組内容 …… 共同作業による水稲栽培の省力化
 特徴 …… 集落内の強いつながり
 戸数 …… 農家:24戸
 面積 …… 水田面積31ha(水張面積25ha)
 標高 …… 430m

課題に対する取組内容と成果

平成10年集落営農組合を設立

Q. 農地・集落を次世代につないでいくには?

1. 現状把握

- 全員が兼業農家
- 集落の“つながり”が強い

2. ビジョンの共有

- 集落内の「農地を守る」ことを目指す
- 地域を維持するための仕組みづくりを検討

[主な取組1] 共同作業による省力化

- 直播による播種作業の省力化
- 水管理・施肥などの共同化や農業用機械の共同利用



LINEを活用して、機械の故障状況などを共有することで、対応の効率化を図っている。

[主な取組2] 農地の保全

- 畦畔管理の省力化
- 鳥獣害対策



一部の畦畔に防草シートを設置。景観へも配慮し、防草シートに芝桜を植栽。

ワイヤーメッシュ柵の点検を年4回実施。近隣集落と広域連携や相互支援の話し合いを進めている

成果

- 共同作業体制の構築による収量・作業効率の向上
- 効率的な作業ノウハウが地域・組織に蓄積

集落の声



藤瀬 吉徳さん

「技術力が求められる水稲直播は試行錯誤を繰り返して、収量が上がるようになった。共同で作業を行うことで何かあったときに助け合うことができる」

「飼料用米だけでなく、共同で米づくりができる体制をつくっていききたい。まずはやりたい人だけからでもやっていきたい」



杠 裕文さん

今後の課題と対応

- 鳥獣被害が特に集落と集落の境界に集中し、さらには構成員の高齢化や減少などによりワイヤーメッシュ柵などの維持管理が困難になってきている。中鶴集落含む隣接する3集落で広域連携し、共同で鳥獣害対策を実施することで維持管理の省力化を図る。



集落の概要

みやき町の北西部に位置し、33世帯が暮らす中山間地域。そのうち14世帯が農業に従事しているが、農業者の平均年齢は70.9歳。

取組に至る経緯

今後の農業の継続が課題。このため集落と関係機関(みやき町・JA・振興センター)の四者で平成30年から検討会を重ねてきた。話し合いの中心になったのは今後を担う若手農業者。「高柳の農地は集落の若手で守る」と意欲に燃える。その思いは集落全体で共有され、「農作業の軽減化」や「コストの低減」など4つのステップからなる将来ビジョンを作成し、実践が始まった。

基本データ

テーマ …… 鳥獣害対策、省力化
 取組内容 …… 捕獲対策の徹底、畦畔管理の省力化
 特徴 …… 若手による検討
 戸数 …… 14戸
 標高 …… 70m

01 | 話し合い

みんなで現状を把握

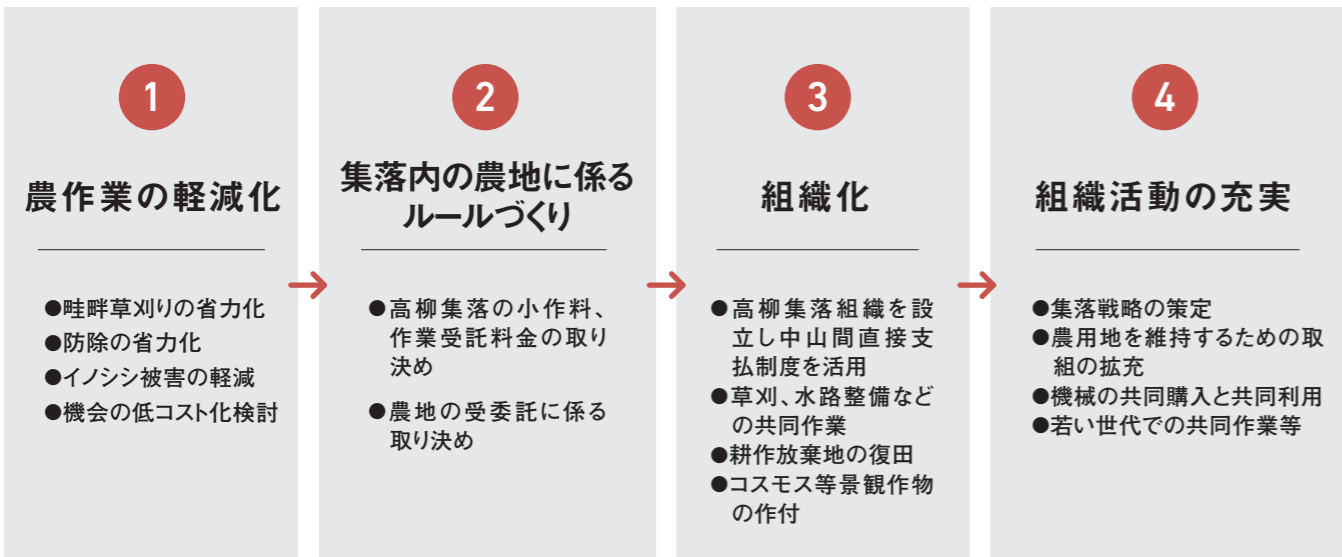
02 | ビジョンづくり

みんなで意見を出す

03 | ビジョンの実践

まずはできることから!

高柳集落の将来ビジョン



集落の声



碓 周三 区長

「以前は個人で抱えていた問題を地域の問題と捉え、より結束は強くなった」

課題に対する取組内容と成果

「農作業の軽減化」の取組

1. 鳥獣害対策

これまで集落ではイノシシ被害に対し、集落を囲むように電気柵等を設置して侵入防止対策をしてきたが、高速道路高架下が封鎖できず集落内にイノシシが侵入していた。まずは、カメラを設置し、イノシシの生育状況や侵入経路の確認を行った。また、音や光で威嚇するオオカミ型ロボット「モンスターウルフ」を2022年1月に試験的に導入し効果を確認している。



2. 中山間地域等直接支払交付制度活用

中山間地域の農業生産活動を継続するための国の支援制度「中山間地域等直接支払交付制度」に令和3年度から取組み、令和4年度は対象を集落全ての農地に広げた。

高柳集落組織を設立し、交付制度を有効活用するため、若手が主体となって話し合いを重ねた。今後、コンバインなどの高価な農業機械を共同購入し、集落組織での共同作業につなげるため、集落内の農業機械の所有状況や稼働状況などの確認を進めている。

3. 省力化技術の導入

○防草シートの設置

危険が伴う急傾斜の水田法面の草刈作業は、安全性と省力化をねらい、防草シートを設置した。

効果も高いことから、今後、交付金を活用した集落単位での計画的な被覆を検討している。



4. 周辺環境の整備

若手のアイデアで、集落で守ってきた「高柳大塚古墳」の周りに花を植え、周辺地域から訪れる人々を温かく迎えようとする準備を進めた。秋にはコスモスが咲き、多くの方が訪れた。



今後の課題と対応

- 畦畔管理の省力化に向けた取組の継続
 - ・畦畔被覆シートやセンチピードグラスの活用
 - ・リモコン草刈機などの購入
- 有害鳥獣対策の徹底
 - ・集落で箱わなの購入と狩猟免許の取得
- 中山間地域等直接支払制度を活用した周辺集落との連携



「石室集落の夢」実現に向けて

集落 唐津市 / 石室集落



集落の概要

東松浦半島の北端部に位置する唐津市鎮西町。周囲を豊かな緑に囲まれる石室地区は、昔から農業が盛んな集落である。しかし、近年は高齢化による農業の担い手の減少や、鳥獣被害が問題となっている。

取組に至る経緯

農地の維持と地域の活性化を目指し、唐津市、JAからつ、県などの協力を得ながら話し合いを重ね、2018年に「石室集落の夢」を作成した。集落の未来を描いた石室集落の夢は、「若者が住みたくなるむらづくり」や「住む人にやさしい集落内環境整備」などの9項目からなる。それぞれの夢を実現するための具体的な活動内容も細かく明示。集落全体で描く夢へ一歩踏み出した。

基本データ

テーマ …… 鳥獣害対策、新規品目
 取組内容 …… 集落ぐるみの鳥獣害対策、根深ネギの共同栽培
 特徴 …… 集落の夢の実現に向けた集落ぐるみの取組
 戸数 …… 59戸
 標高 …… 約100m
 品目 …… 水稲(約20ha)、タマネギ、葉タバコ、みかん、イチゴ等

01 現状把握 石室農業を考える会 発足

集落全員にアンケート調査を実施

成果 集落全員で将来を考える場ができた

02 課題の共有 ワークショップの実施

経営主、配偶者、後継世代のグループに分かれて実施し、全員の声をとりまとめた



03 解決策立案 集落ビジョン「石室集落の夢」作成

アンケートやワークショップで出されたアイデアをもとに「石室集落の夢」を作成。9項目49の取組について、時期や重要度等により整理している。

9項目

49の取組

- イノシシ対策 ●農業機械の共同化 ●共同経営と後継者育成 ●共同経営のための所得向上 など

[主な取組1] 自然と共生できる環境づくり

イノシシ被害対策



[主な取組2] 共同経営を考えた集落営農と後継者育成

新規品目の導入による農業所得の向上



集落の声



松本 俊則さん

「イノシシによる被害は深刻だが、集落ぐるみで対策を行い、なんとか被害の低減を目指したい。全国的にも珍しいイノシシの供養祭も続けていきたい」

「定年を機に農業に挑戦している。タマネギなどに比べると軽量の根深ネギは高齢化が進むこの地域に適している。石室の未来に貢献できれば」



野崎 英信さん

課題に対する取組内容と成果

鳥獣害対策

2011年に「石室地区有害鳥獣被害対策協議会」を設立。住民が一丸となって、地域を守る活動を進めてきた。「石室集落の夢」にも鳥獣害対策の項目を盛り込み、「自然と共生できる環境づくり」を目指して、さらなる対策強化を図っている。

[取組1] 見える化

イノシシの生息状況や侵入ルートの全容を地区全体で把握



成果

公民館に掲示し、都度最新情報を書き足し共有する習慣ができた

[取組2] 仕組み化

免許を持っていない住民も捕獲のサポートができる仕組みを導入

わなの見回りや餌まきなど、捕獲を補助する「捕獲班」の取組に県内でいち早く着手

成果

狩猟免許保持者の負担低減・持続的な捕獲活動体制の構築

[取組3] 協議会で箱わなの餌となるサツマイモを共同栽培

餌とするだけでなく、収穫体験をとおして地域の活性化にも取り組んだ

[取組4] イノシシ肉の活用を検討

専門家を招き、イノシシを解体する研修を実施。供養祭等で様々なジビエ料理を味わっている

新規品目の共同栽培

「石室集落の夢」の中に「共同経営を考えた集落営農と後継者育成」を掲げ、新規品目の共同栽培を模索。これまでに約10品目を試作し、2022年より根深ネギの共同栽培を本格的に開始した。

課題

高齢化や米価の下落などが原因で、農業の担い手が減少

[主な取組] 共同経営を考えた集落営農と後継者育成

2018年から上場地域に適した新規品目を模索



カンショ [からゆたか]



エゴマ



根深ネギ



シンテッポウユリ



ホオズキ

これまでに10数種類の新規品目候補を試作



根深ネギを共同栽培

上場地域に適し、安定した需要が見込める

メリット

- 露地栽培が可・施設初期費用不要
- 収穫適期が長い
- 軽量野菜のため作業負担低減

成果

- 2021年:試験的に根深ネギの栽培がスタート 『石室野菜栽培省力化部会』が発足。農家をはじめ、非農家の住民も巻き込んで10数名で活動している
- 2022年:作付け面積を30アールに拡大 根深ネギの栽培を本格的に始動。集荷体制(JA)が整備された

今後の課題と対応

- 【鳥獣害対策】現在は箱わなを使用した捕獲を実施しているが、今後はくくりわなを使用した捕獲にも挑戦していきたい
- 【新規品目】根深ネギの面積拡大(30a→1ha)を予定している。より省力的で安定的な栽培方法を検討したい
- 今後も集落の未来を見据え、集落みんなが安心して楽しく暮らせるよう、前向きに活動していきたい



06

新しい芽、未来へ向かって

産地 唐津市・玄海町 / JAからつアスパラ部会



産地の概要

アスパラガスの栽培が盛んな佐賀県は、全国第2位の生産量を誇る。その中でも「JAからつアスパラ部会」は、県内平野部の産地と比較すると規模は決して大きくないが、就農者の平均年齢が若く、熱心な取り組みで、着実に収穫量を増やしている。また、「唐津版アグトレ」など、技術習得のための研修を充実させることで新規就農者を増やし、作付面積の拡大を図っている。

取組に至る経緯

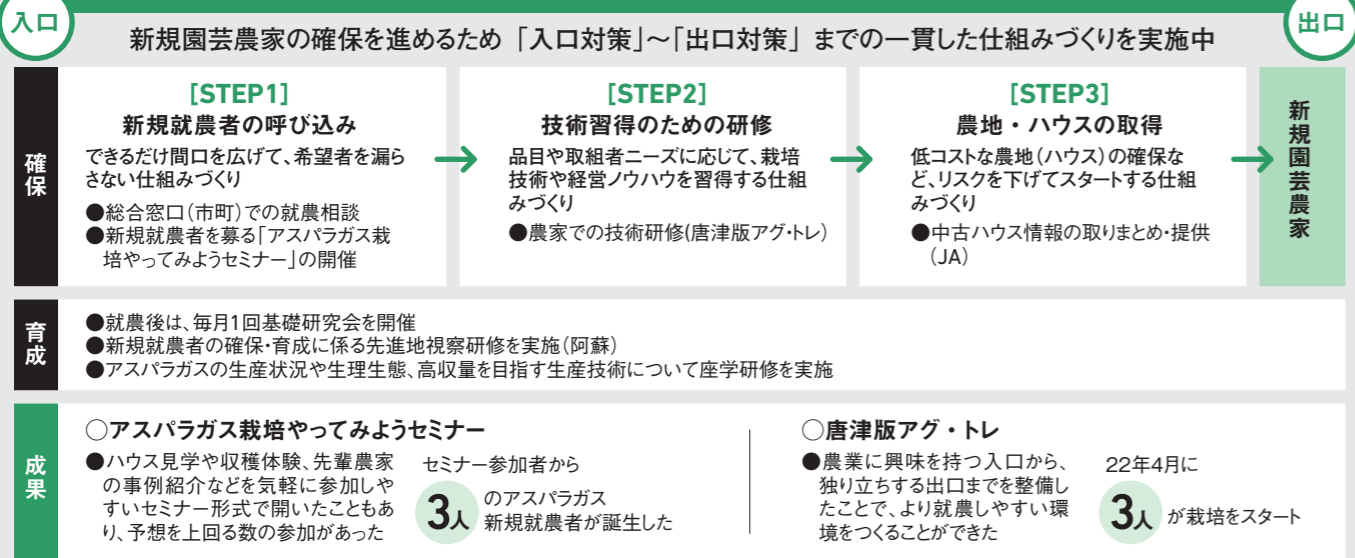
新規に取り組みやすい品目で、生産戸数及び栽培面積は増加傾向である一方、10年後に栽培を「続ける」と回答した人は約7割。産地の更なる発展に向けて、生産者の所得向上（生産力向上、規模拡大）や新規就農者の確保・育成対策に取り組む。

基本データ

テーマ …… 産地活性化
 取組内容 …… アスパラガス部会における新規栽培者確保・育成の取組
 特徴 …… 「入口対策」～「出口対策」までの一貫した仕組みづくり
 戸数 …… 農家:40名（中央地区:13名 東部地区:18名 西部地区:9名）
 面積 …… 9.4ha

課題に対する取組内容と成果

新規園芸農家の確保・育成を進める一貫体制づくり



産地の声



「不安もあったが、部会の雰囲気すごく良かったから安心した。すぐに相談できる先輩が近くにいるのは心強い」

福岡県出身の新規就農者 小川 雄大 さん



「栽培技術を上げるには、人の畑を見るのが一番。研究会に積極的に参加してほしい」

アスパラ部会長 浦田 秀樹 さん

今後の課題と対応

- 更なる仲間づくり
引き続き新規就農がしやすい環境づくりを行い、魅力ある産地を築いていきたい
- 研修カリキュラムの充実
実地研修に加え座学研修の充実を図り、急激な気象変動にも対応できる応用力のある栽培技術の習得を図る
- フォローアップ体制の充実
新規就農後でも早期に安定した収量が確保できるよう、部会・関係機関との支援体制のさらなる強化



07

実る新品種の可能性

産地 唐津市・玄海町 / 唐津地域果樹産地構造改革協議会



産地の概要

30年以上にわたってハウスミカンの生産量日本一を誇る佐賀県。その中心となるのが、自然豊かな唐津・東松浦地域だ。冬季の日照不足など、気象条件の不利を、ハウス栽培で乗り越えた歴史がある。しかし、農家の高齢化や人手不足などの影響により、ハウスミカンの栽培面積が減少してきている。

取組に至る経緯

「唐津地域果樹産地構造改革協議会」では、5年ごとに唐津・東松浦地域の果樹農家を対象にアンケートを実施。調査結果では、後継者がいなくて困っている農家や、高騰する燃料費に悩まされる経営状況など、様々な課題が洗い出された。こうした課題を受けて協議会では、引き続き産地を維持・発展させるため、今後10年間の計画を立て、将来を見据えた新たな品目・品種の推進や、新技術の導入による高品質安定生産の推進、後継者の育成などに取り組むこととしている。

基本データ

テーマ …… 新品種
 取組内容 …… 新品種の導入
 特徴 …… 新品種「佐賀果試35号」の導入推進

課題に対する取組内容と成果

唐津地域果樹産地構造改革協議会

- 取組** ●産地の維持・発展 ●10年間計画策定 ●後継者の育成
 ●将来を見据えた新たな品目・品種の推進
 ●新技術の導入による高品質安定生産の推進
- 組織体制** JAからつ、鏡果実農業協同組合、唐津市、玄海町、東松浦農業振興センター、生産者代表、佐賀県農業共済組合、佐賀県農業公社 等

課題

高齢化や人手不足でミカンの栽培面積が減少

取組 新たな品目・品種の推進による収益性の向上

- 『佐賀果試35号』
 「西之香」と「太田ボンカン」を掛け合わせた品種
 ●モデル園を設置…地域条件に適した栽培方法の普及促進
 ●登録園への指導…きめ細やかな指導を実施



糖度などの一定の基準を満たしたものがブランド「にじゅうまる」として販売

令和3年3月 「にじゅうまる」市場デビュー

- 特徴** ●優れた食味 ●無加温栽培 ●貯蔵特性

成果 唐津・東松浦地域でも栽培農家が増えている

集落の声



今年初収穫を迎えた若手生産者の 谷口 朋之 さん

「味の評判も良く、高単価で安定しているにじゅうまるには、大きな期待を寄せている。自分はミカン農家の3代目。次の世代へこの産地をつなぐために自分たちの世代の課題にしっかりと向き合いたい」

今後の課題と対応

- 植付3年目（初着果）までの早期の樹冠拡大
- 連年安定生産するための適正着果の徹底
- 生産者間における果実品質の均質化（バラツキのない）
- 貯蔵体制の構築





集落の概要

伊万里市と有田町の境に位置する伊万里市二里町中田集落。集落の中には棚田が広がり、秋には彼岸花が咲き誇る。季節ごとに多くの人々が足を運び、巡る四季を感じることができる人気スポットになっている。

取組に至る経緯

平成のはじめごろから集落内の圃場整備を実施し、その後平成17年から集落営農組織としての組織整備を行ってきた。しかし近年、集落全体の高齢化や後継者不足が進み、棚田の整備、除草作業をはじめとする維持管理が非常に困難になってきている。そこで若手兼業農家の参画を促進することで棚田の維持管理、さらには露地野菜などの栽培振興に向けた取り組みを行う。

基本データ

テーマ …… 組織、鳥獣害対策
 取組内容 …… 若手兼業農家の参画促進
 特徴 …… 米の高付加価値づくりにも注力
 戸数 …… 41戸
 標高 …… 中田:95m 炭山:200m

中田集落の目指す姿

- 明るい中田、儲かる農業 -

中田集落農業ビジョン

- 生産基盤環境の整備
- 持続的な担い手組織の育成
- 地域内の農業所得向上

1. りっぱな生産圃場環境づくり

鳥獣被害の軽減対策等

2. 未来につながる受託組織

将来のオペレータの確保・育成等

3. 高く売れる米づくり

「夢しずく」の品質・食味の向上等

4. 新たな商品づくり

新たな露地野菜の導入等

集落の声



中田集落営農組合
組合長の吉富 伸克さん

「若手の参加は、未来の希望。会社勤めの人も多いが少しでも力を貸してくれるとありがたい」

「棚田というひとつのシンボルから集落全体へ良い影響を与えていきたい」



木寺 清太さん

課題に対する取組内容と成果：テーマ①組織

課題

高齢化
後継者不足

2018年 ワークショップやアンケートを実施

集落の現状把握・将来目指したい集落のビジョン等を作成した。

- 集落の若手へ、農業への参加意欲についてアンケート調査を実施



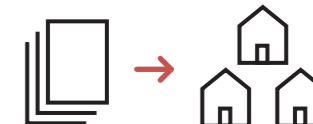
アンケート結果

「農作業の手伝いはできる」
 「平日でも予定が早く分かれば有給休暇を取得して作業に参加できる」
 前向きな意見を聞くことができた!



回答を
ヒントに...

田植えなどの
作業計画表を作成し、
集落全体へ共有



成果

- 若手が農作業へ参加しやすくなり、集落に活気が生まれた
- 大型特殊免許の取得に必要な自動車学校の費用を集落で全額補助スタート
◎県内でも珍しい事例であり将来の農耕機オペレーターを確保する狙い

課題に対する取組内容と成果：テーマ②鳥獣害対策

課題

イノシシ被害が年々増加し、圃場が荒らされるため
営農意欲の低下につながる恐れがある

ワイヤーメッシュ柵や捕獲のための箱わなの見回りを強化→集落点検の開始

- 捕獲班を設置し、捕獲頭数の増加を図った
- 暗視カメラを用いてわなの状況確認
- 猟友会を招きわなの設置方法の研修



成果

- 暗視カメラを設置したことで、イノシシ捕獲用の箱わなにアライグマが侵入しエサを食べていることが判明した
- 中型哺乳類用のわなを設置し、アライグマを駆除開始
- アライグマの駆除を行ったことで、イノシシを効果的に箱わなに誘引でき、捕獲頭数を増加することができた

今後の課題と対応

- オペレーターの確保・育成に向けた取組として、大型特殊免許の取得に向けた全額補助の取組み拡大を図っていく
- 若手兼業農家数名による新たな園芸農産物の栽培や、中田地区ブランドの棚田米の販売などを計画しており、集落全体としても活性化できる体制を作っていきたい



09

安定経営と産地活性化をサポート

産地 伊万里市・有田町／JA肥育牛部会・生産牛部会

産地の概要

豊かな自然に包まれた伊万里市は、佐賀牛など県内でも有数の肉用牛の生産が盛んな地域。



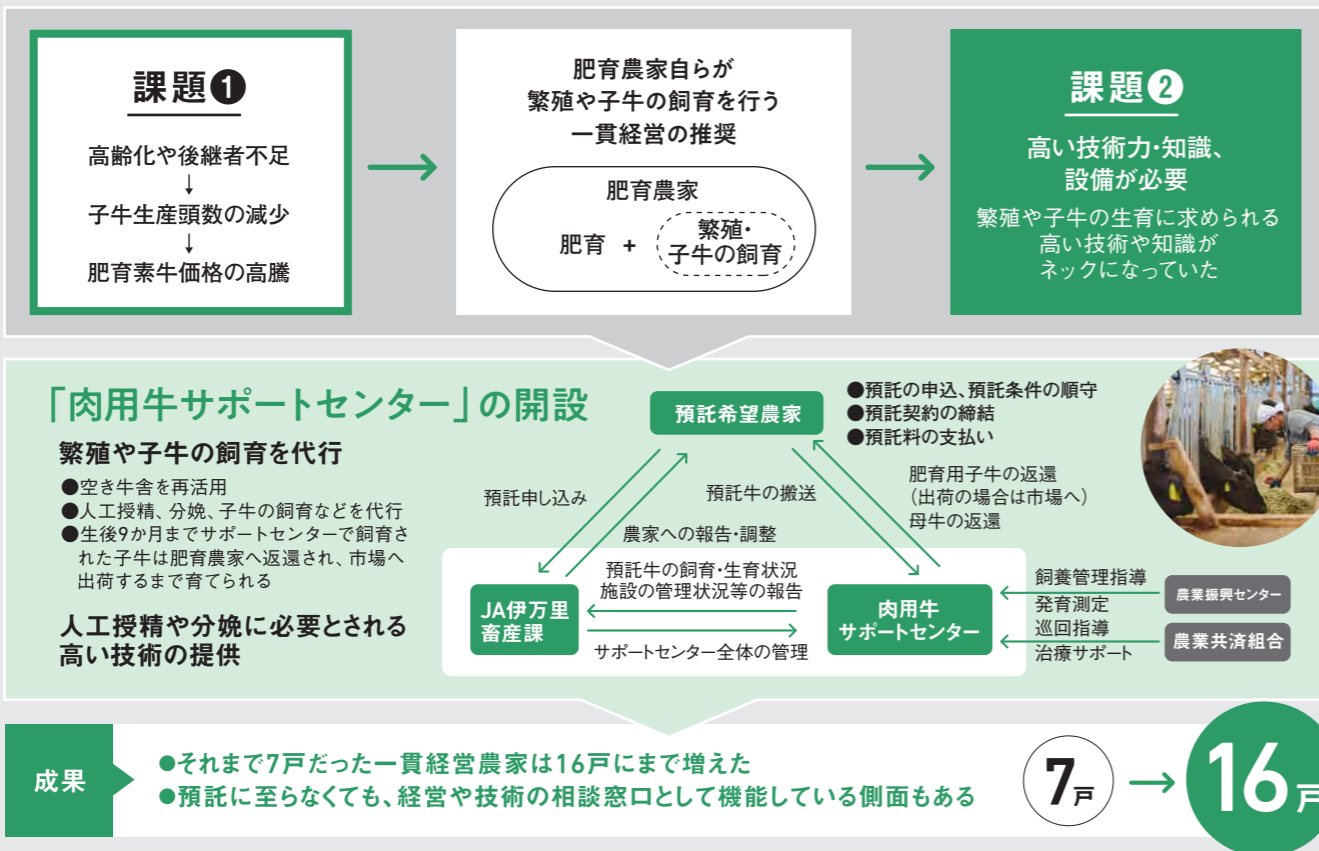
基本データ

- テーマ …… 産地活性化
- 取組内容 …… 肉用牛サポートセンターにおける子牛生産サポート
- 特徴 …… 繁殖・肥育一貫経営の推進、省力化
- 部会員数 …… 肥育牛42名
生産牛38名(重複13名)(令和4年時点)
- 頭数 …… 繁殖牛:約720頭
肥育牛:約5500頭

取組に至る経緯

これまでは、繁殖農家が子牛の生産と飼育を担い、肥育農家はその子牛を購入して出荷まで育てる分業が中心だったが、近年、繁殖農家が高齢化や後継者不足の影響で廃業が相次ぎ、子牛の価格が高騰。通常の3倍近い価格が付けられることもあり、肥育農家の経営を圧迫した。これらの背景から、2019年11月に人工授精、分娩、子牛の飼育などを代行する「肉用牛サポートセンター」を開設。

課題に対する取組内容と成果



産地の声



設立を機に肥育専業から一貫経営に転換した市丸千代子さん

「サポートセンターに母牛を預ければ繁殖部門も始めやすい。今では預ける頭数を徐々に増やしている。肥育素牛価格が高騰している中で、自ら肥育素牛を生産できれば経営全体の安定化につながる。」

今後の課題と対応

- 子牛の発育成績・母牛の繁殖成績向上に向けた取り組み
優良子牛の作出、母牛の分娩間隔の短縮を目指す。飼料給与内容や衛生管理等、飼養管理内容を生産牛部会、関係機関と連携しつつ、検討を行う。
- 預託拡大に向けた取り組み
管内の一貫経営化の促進、労力不足の農家の省力化を図るため、預託の推進活動などPRを行う。



10

「さくひめ導入」産地の希望

産地 伊万里市／JA伊万里もも・すもも部会



産地の概要

古くから梨、ぶどうなどの果樹栽培が盛んで、フルーツの里としての歴史を歩んできた伊万里市。今から約20年前には、南波多町を中心にもものハウス栽培がスタートし「JA伊万里もも部会」が発足した。ハウスももは5月から出荷が始まり、他の産地と競合しにくいことから高単価で取引されている。また、梨やぶどうなどの他品目との収穫時期が重ならないため、果樹の複合品目として優れている。そのため近年、もも部会の人数、面積は増加傾向にある。

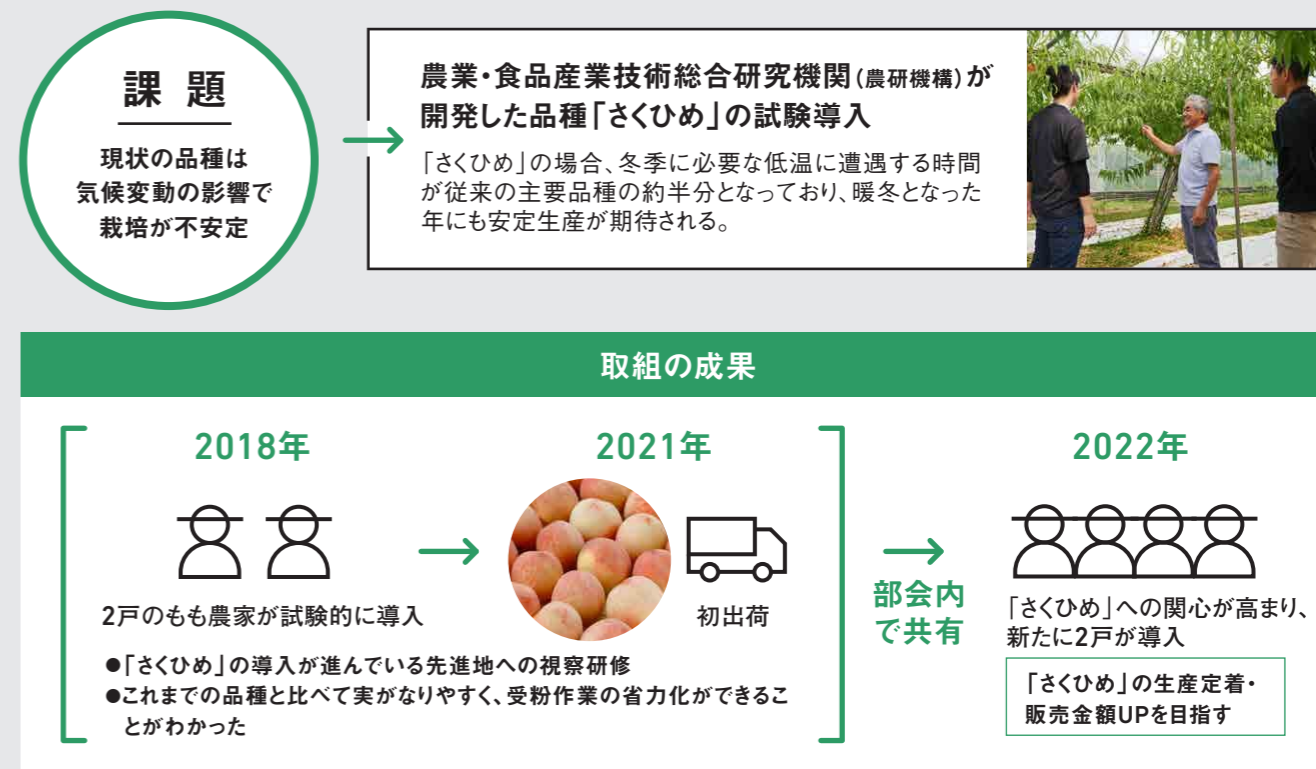
取組に至る経緯

ももや梨などの落葉果樹は冬季に一定時間の低温に遭遇することで正常な生育が可能となる。しかし、近年の著しい気候変動の影響で冬季に十分な低温に遭遇できないこともあり、既存品種のももでは栽培が不安定となっている。

基本データ

- テーマ …… 産地活性化
- 取組内容 …… モモ新品種「さくひめ」の試験導入
- 特徴 …… 高単価・果樹の複合品目
- 部会員数 …… もも農家11名
- 面積 …… 308a(すべてハウス栽培)

課題に対する取組内容と成果



産地の声



もも農家 熊川幹夫さん

「糖度が高く、食味も良好。これまでの品種と比べて実がなりやすく、受粉作業の省力化にもなる」

今後の課題と対応

- 「さくひめ」の加温栽培の事例が少なく、加温栽培での生育特性などが不明な点が多い。
- 早期加温による暖房費のコスト増。
- 外観に特徴があるため、収穫期の判断が難しい。
- 栽培技術確立や適正な加温開始時期の把握、販売環境の構築が必要。





集落の概要

豊かな自然に囲まれ、のどかな田園風景が広がる武雄市若木町には、3つの集落営農組織が存在する。そのなかでも最も多い75名の組合員で構成される川古集落営農組合。川古集落は、樹齢3000年の「国の天然記念物 川古の大楠」の雄大な姿を求めて多くの人が訪れる地域。

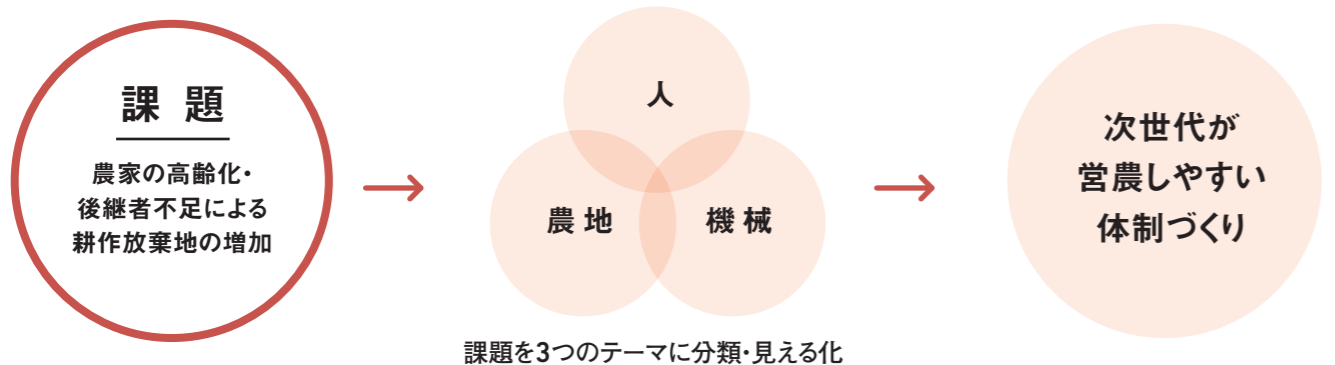
取組に至る経緯

農家の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などの課題が顕著になっていた。そこで、2020年から組合の役員が中心となって、関係機関の協力を得ながら川古集落の将来を考えるプロジェクトを開始した。

基本データ

テーマ …… 担い手確保
 取組内容 …… 若手の参画づくり
 特徴 …… 見える化
 戸数 …… 70名
 面積 …… 44ha

取組の方針



テーマ	取組の実行フロー	主な取組内容
人・農地	①「川古地域農業の将来を考える会」の開催 ②「人」「農地」に関するアンケート調査の実施 ③「川古地域農業の将来を考える会」全体報告会の開催	・アンケート調査 ・「将来地図」の作成 ・報告会 ・若手との意見交換会
機械	④「機械」に関するアンケート調査の実施	
人・農地・機械	⑤「川古地域農業の将来を考える会」の開催	

集落の声



組合長の
久保 喜久男 さん

「地域の若手が協力してくれるのは嬉しい。感謝の気持ちを忘れず、一緒に地域を守っていきたい」

課題に対する取組内容と成果

アンケート結果をもとに「将来地図」の作成

白地図にアンケート結果を反映させ、今後どのように農地を維持するか等の話し合いの場で活用



効果 見える化することで話し合いが活発になり、議論の内容に具体性が生まれた

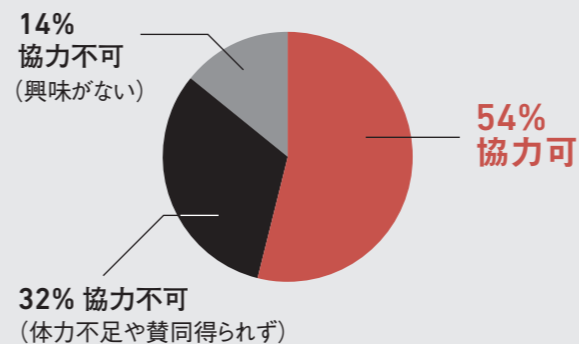
成果

- 「人」と「農地」の動向が可視化され、どの農地がどれくらいの期間管理できるかなどを把握できるようになった
- 将来、担い手不在の可能性のある農地を「代わりに引き受ける」という声があがった

次世代が地域営農や農作業に参画しやすい体制づくり

①地域の消防団に所属する若手に対し、田植えや稲刈りへの参加意欲を調査(28名)

Q. 川古地域を守るため、地域ぐるみの活動に協力できますか？



Q. 川古地域農業のため、田植えや稲刈り作業のオペレータや補助員に協力できますか？

協力できる		協力できない
平日も可	土日のみ可	
1	9(稲刈り8)	18

→ 協力できる **9名**



②組合と若手の意見交換会を実施

作業内容や日当を明確にすることで、若手が参画しやすい雰囲気づくりにも力を入れている

成果 これまで、経営者側は「若手は農業に興味をもっていない」と思っていたが、消防団の若手からは、田植えや稲刈りへの参加に意欲的な声が多く、地域の持続を願う同じ思いを持っていることが分かった

今後の課題と対応

- 令和2年度から地域一体となって課題に取り組み、意見交換できたことで、次世代が地域営農に参画しやすい仕組みづくりができた
- 引き続き、人・農地・機械に関する課題の見える化、仕組み化、情報の共有化に努めていく
- 次世代に対しトラクターやコンバインの免許取得をサポートするなど、参画しやすい環境づくりを今後の検討していきたい



12

農地と作物の保護に、集落一丸

集落 武雄市 / ^{なかわかき}中若木集落営農組合

集落の概要

「農地は集落全員で守っていき、次世代に引き継いでいく」という理念を持つ中若木集落営農組合。武雄市若木町の中山間地域に位置し、圃場周辺には茂みも多い。

取組に至る経緯

理念を具体的に実現するために2021年にワークショップを開催。組織の強みや弱み、理念実現に向けたアイデアなど様々な意見が出され、その中で「魅力ある地域の農地を生かした新規品目の検討」や「集落ぐるみでの鳥獣害対策の徹底」などが喫緊の課題としてあがった。

基本データ

テーマ …… 新規品目、鳥獣害対策
 取組内容 …… シンテッポウユリ導入、鳥獣害対策
 特徴 …… 理念の実現に向けた集落ぐるみの取組
 組合員数 …… 54名
 経営面積 …… 33ha

課題に対する取組内容と成果

課題	理念
・集落の高齢化 ・地域農業の担い手不足	農地は集落全員で守っていき、次世代に引き継いでいく

新規品目

[取組1] シンテッポウユリの導入

21年4月に50㎡で試験導入

○メリット

- ・水田で栽培可能な品目
- ・軽量なため作業しやすい
- ・春に植えた苗がお盆前後には出荷できるため、夏場の所得確保が期待できる



[取組2] ハウスを補修して育苗に挑戦

こまめな温度や水管理を行ったことで、しっかりとした苗ができて、22年産の作付面積を130㎡に増やすことができた

成果

- 21年産は試作ながら8割近くが収穫できた
- 「令和4年度さがら園芸888運動花き振興チームモデル圃地」に認定
- 市場からは「とても品質がよいユリが生産されて喜ばしい」と評価

鳥獣害対策

[取組1] 集落点検会を実施

住民全体での鳥獣被害対策を行うため2020年に集落点検会を実施



[取組2] 「被害マップ」の作成による見える化

被害を受けた圃場、イノシシのすみか、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の破壊箇所などの情報を共有

[取組3] 中型哺乳類に特化した小型わなの設置

暗視カメラの設置により、アナグマやアライグマなどの中型哺乳類がイノシシの箱わなに侵入して餌を食べていることが判明

成果

- 被害箇所の特定
- 地図上で「見える化」が進んだことで、茂みに近い所の農地で被害が大きかったことが分かった
- 継続した対策体制の構築「被害マップ」を作成したことで常に情報共有を行う仕組みができた
- 小型わなの施策が成功し、集落の士気が向上

産地の声



松尾 志郎 組合長

「もともと仲の良い集落だが、課題を共有することでさらに結束は強まった。常にコミュニケーションをとって情報共有を図り、みんなを守っていきたい」

今後の課題と対応

- シンテッポウユリの高品質安定生産技術の実証
- イノシシの習性や、餌になる作物が実る時期を記した鳥獣被害対策カレンダーの作成
- 後継者が農業をしたいと思えるように、地域で農地を守る仕組みづくりや、守るべきエリアの周知に取り組む



13

法人のカタチ、進化中。

集落 武雄市 / 農事組合法人西梅野ファーム

集落の概要

西九州新幹線開業を機に、賑わいが期待される武雄市。県内有数の武雄温泉街から車で15分ほど走り、のどかな田園風景が広がる武雄市武内町西梅野集落。米や麦、大豆を中心に農業が盛んで、集落営農組織を中心に、集落で農業に取り組んでいる。

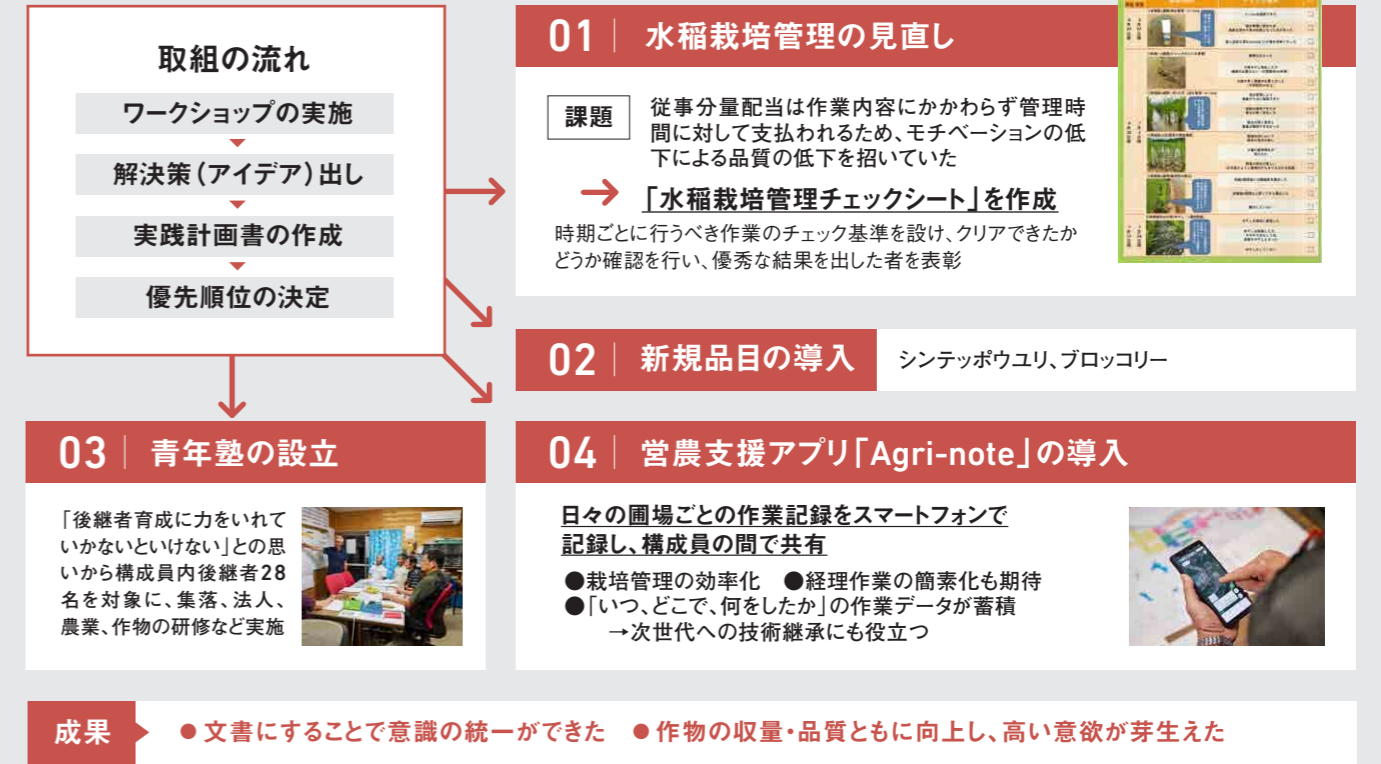
取組に至る経緯

平成18年、西梅野集落営農組合を設立。平成26年から集落営農を強固なものにし、農地を次世代へつないでいくため話し合いを重ねた。平成29年、農事組合法人西梅野ファームを設立し協業経営を開始した。設立から5年が経ち、水稻・麦・大豆を法人で経営し収益が安定してきた。耕作放棄地を出していない、などの成果が出ている。しかし、中長期計画が無く、問題が生じても効果的な解決策を講じることができていなかった。

基本データ

テーマ …… 話し合い、新規品目、鳥獣害対策
 取組内容 …… ワークショップ、集落点検会 ICT導入
 特徴 …… 地域住民の積極的な関わり
 戸数 …… 36戸
 経営面積 …… 26ha
 主な経営品目 …… 水稻、大豆、大麦、キャベツ、ブロッコリー、シンテッポウユリ

課題に対する取組内容と成果



集落の声



アプリ担当の黒川 司さん

「若い世代からは導入して良かったという声が聞こえる。これからは高齢の方たちへどう広げていくかが課題」



代表理事の小柳 信博さん

「作業の質の向上に加え、高い意識と意欲が芽生え、農作物の品質も良くなった」

今後の課題と対応

上記取組により作物の収量品質の向上はできたが、依然として高齢化による担い手不足は大きな課題である。今後は青年塾やICT技術の導入、水田の高収益化を軸として後継者育成に力を注ぎ、持続性のある集落営農法人を目指す。



14

多様な意見、できることから1つずつ

集落 江北町 / 岳集落

集落の概要

佐賀県の中心に位置する江北町。岳集落は江北町の中山間地に位置し、米、麦、大豆に加え、日当たりの良い斜面ではミカンやキウイフルーツ等の生産を行っている。また、上小田集落営農組合、岳区棚田管理組合(中間地域等直接支払交付金)、岳地区農村環境整備組合(多面的機能支払交付金)、岳農業機械利用組合を組織し、営農や集落の生活環境維持に取り組んでいる。

取組に至る経緯

岳集落では高齢化が進み、今後一人暮らしの高齢者世帯の増加等が予想される。また、岳集落は中山間地に位置し、傾斜地での畔・法面の草刈りや耕作は高齢化とともに困難となってきた。集落の将来を見据えとる農業のみならず生活環境の維持管理など楽観視できない現状が目前に迫っている。



基本データ

テーマ …… 話し合い
 取組内容 …… ワークショップの実施、ビジョン作成
 特徴 …… 集落全体を巻き込んだ将来ビジョンの作成
 ワークショップに若手や女性も多数参加
 戸数 …… 31戸

課題に対する取組内容と成果

令和元年 ワークショップの開催

別府大学の森先生をコーディネーターとして4回招聘
 内容 集落のいいところ、お宝、悩み、心配、集落の夢等について



ワークショップ
 総実施数
21回
 ・多い時は月3回
 ・20名程度参加

集落ビジョン作成委員会 発足

第2回のワークショップ後に発足
 世代・性別・職業等を考慮し、8名を選出

メンバー
8名
 農家、会社員、主婦など

集落ニュース「岳 未来づくり」の発行

ワークショップの内容をまとめ、情報共有を図る
 ●岳地区のいいところ
 ●課題 ●将来の夢 など



令和2年 集落のビジョンが完成

ビジョンに沿った具体的活動内容を定めるためアンケートを実施

回収率 **83/84**



成果

●集落の防犯灯を8灯増設した
 ●「集落にある観音様を祀りたい」との意見から、集落の老人会の方々と前掛けを制作
 →「地域をみんなで守っていく」という機運が高まった



集落の声



谷口 勝信 さん

「ワークショップの実施やビジョンを作成したことで、若手やベテラン、女性など年齢・性別を問わず意見交換できたことがよかった。今後でもできることから一つずつやっていきたい」

今後の課題と対応

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、令和2年度からあまり活動ができなかった。将来ビジョンは作成済み、これからは目指す将来像の実現に向けた取組を行う。どのような取組から行うか、役員会で考えながら最初の一步を踏み出すことが次の課題である。



15

広めたい、産地の新たな光「璃の香」

産地 白石町 / 白石地区果樹試験組合

産地の概要

干拓地からの平野が広がる白石町。その白石町の山間部に位置する白岩地区は、昔からみかんなどが生産されてきた地域である。後継者の減少や有害鳥獣の被害等により遊休農地が増加している。



基本データ

テーマ …… 新規品目
 取組内容 …… レモンの品種「璃の香」の栽培面積・販路拡大
 特徴 …… 町独自の補助、民間企業の参入
 構成員 …… 8名
 面積 …… 6.14ha

取組に至る経緯

白石町は農業が盛んで玉ねぎ、レンコン、いちごなどの特産品があるが、令和元年の「道の駅しろいし」オープンに向けて、新たな特産品づくりのためレモンの品種「璃の香」の栽培を開始。平成28年より白岩地区にて試験組合を立ち上げ、試験栽培を開始した。果樹は苗を植えてから収穫できるまでに数年を要するため多くの苦労があった。令和元年、やっとの思いで道の駅しろいしで試験販売を開始。しかし、璃の香の産地化を目指すためには、引き続きさらなる栽培面積の拡大と販路開拓を図る必要がある。

課題に対する取組内容と成果

平成28年
 白岩地区にて試験組合を設立

レモンの品種「璃の香」の試験栽培を開始

課題①

栽培面積・生産者の拡大

取組① 町独自の補助

町単独事業で「璃の香」の苗木の補助を行い、植栽本数は徐々に増加。補助は果樹農家だけでなく、果樹栽培未経験の兼業農家等も対象としている

2016年 **25本** (試験圃場) → 2022年 **1450本** (白石町全体)

取組② 企業の参入

都心運送佐賀営業所が、経営の多角化と高齢運転手の第2の仕事づくりを目的に、白石町内の83aの遊休農地を借り受け「璃の香」の栽培を2022年に開始



課題②

販路の拡大

取組① マーケット調査や消費者動向調査の実施と販売戦略の策定
 中山間地域所得確保対策事業を活用

取組② 「道の駅しろいし」での販売



取組③ 加工品やレシピの開発・試作
 皮が薄くて種がほとんどないため、絞りやすいという特徴があり、飲食店などでも評判がいい

成果

●「璃の香」の栽培が町全体に広がっている(20名が栽培) ●生産拡大に向けて機運が高まっている

産地の声



下村 組合長

「璃の香は酸味が少なく、まろやかな甘さが特徴。また、鳥獣害が少なく、病気にも強いため栽培しやすい。璃の香の良さをもっと広めていきたい。」

今後の課題と対応

●さらなる栽培面積の拡大、生産者の確保・育成
 ●集出荷体制の確立
 ●白石町内飲食店舗での活用促進



優良園地を守り、稼げるみかん経営へ

産地 鹿島市／嘉瀬ノ浦地区

産地の概要

優良園地維持のため、ゾーニングを図るとともに「嘉瀬ノ浦地区農地を守る会」を設立して農地中間管理機構を活用し、担い手への農地集積を進めている。
 基盤整備園へ根域制限栽培を導入し、高品質果実を生産している。また園地集積した樹園地を農地中間管理機構関連事業を活用して、基盤整備を実施し、根域制限栽培の規模拡大を図る予定としている。

取組に至る経緯

みかん栽培の後継者不足や高齢化により、現在は優良園地でも今後、耕作放棄地となる園地が多数予想される。みかん産地として樹園地を維持していくためには、優良園地を集積し、高収益技術を導入する必要がある。



基本データ

テーマ ……産地活性化
 取組内容 ……農地集積と圃場整備による効率化、根域制限栽培の拡大
 特徴 ……基盤整備事業を活用したみかん根域制限栽培の拡大
 ミカン生産者数…22名(嘉瀬ノ浦地区農地を守る会)
 樹園地 ……温州みかん、中晩柑等35ha



優良園地を未来へつなぎ、稼げるみかん経営の確立を目指す

産地の声

「代々受け継いできた嘉瀬ノ浦の樹園地を守っていき、次の世代へつなげていきたい」
 「みかんの販売単価が年々良くなっているから、稼げるみかん経営を実現したい」



課題に対する取組内容と成果

担い手への優良園地の集積

ワークショップ、アンケート調査の実施

目的

- ビジョン作成のための話し合い
- 「優良園地を守る」という意識の醸成
- 園地の集積体制と流動化への方針づくり



園主ごとに色分けした園地マップを作成



みかん産地のビジョン作成

基盤整備の実施

2.5haの樹園地が集積されたことで、農地中間管理機構関連事業を活用した基盤整備を実施予定。根域制限栽培の拡大が図られる。

令和5年度より造成着工予定

基盤整備後の工区面積

2.5ha



稼げるみかん経営の確立

根域制限栽培の面積拡大

農地中間管理機構関連事業活用による基盤整備予定地

中山間地域総合整備事業 鹿島地区【嘉瀬ノ浦・嘉瀬ノ浦】

集落ぐるみの鳥獣対策

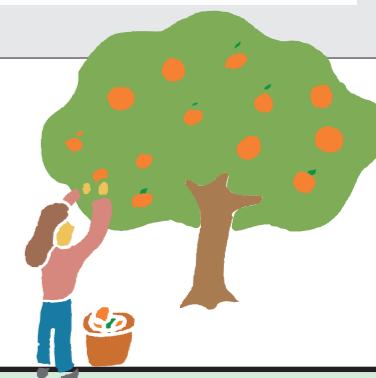
・カメラによる獣種の特定
・捕獲班の設置

成果

- 優良園地が集積し、品種・作型別に団地化を進めるための、ビジョンが作成された
- 根域制限栽培を導入したことで、平坦地でも高品質な果実の生産が可能となり、省力化・収益向上につながった
- 鳥獣対策において、カメラによる獣種の特定、マップによる被害の見える化により、対策における意識の醸成が図られ、捕獲班の設置へとつながった

今後の課題と対応

- 品種・作型毎の団地化を進め、農作業の効率化を進める
- 根域制限栽培の面積を拡大することで収益性の向上、稼げるみかん経営の実現を目指す
- 省力化技術の導入による、少ない人数で産地を維持していく栽培体系の確立



17

技術向上と新たな作物で産地活性化

産地 太良町／糸岐地区

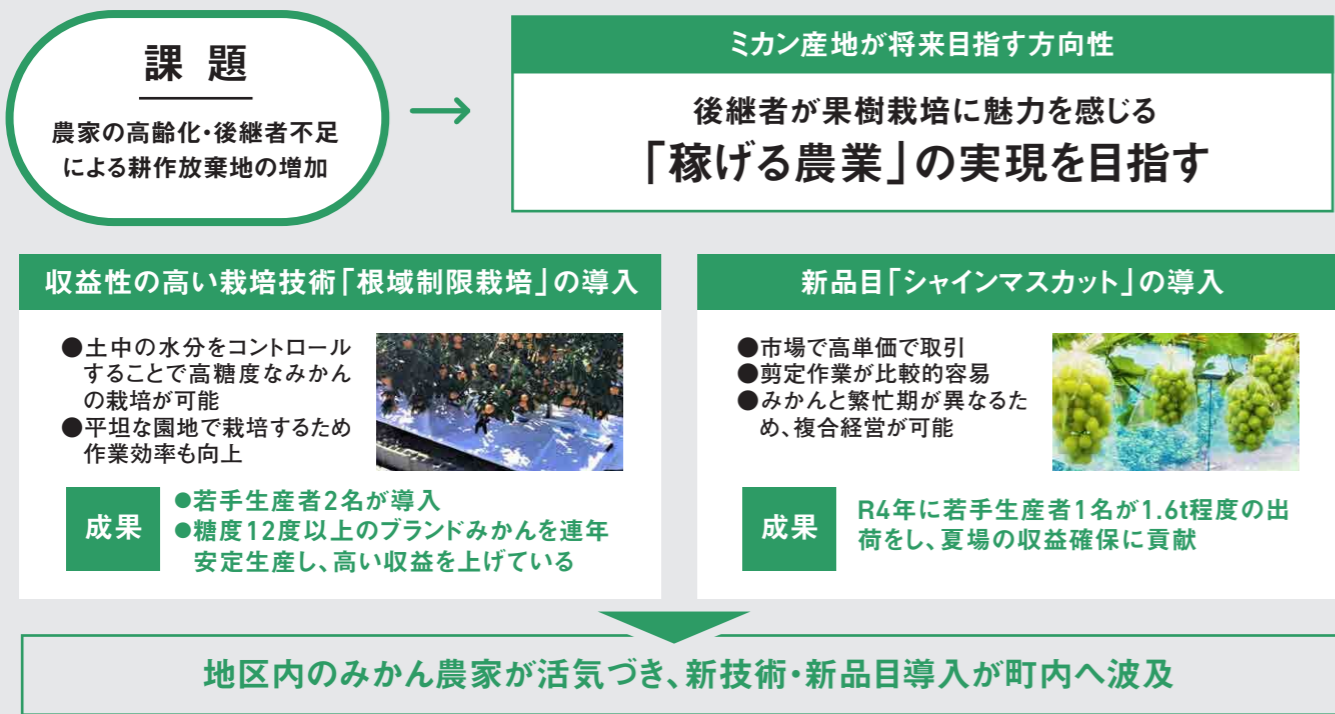
産地の概要

有明海に面する太良町では温暖な気候を生かしたみかんの生産が古くから盛んな地域。JAさがみどり地区みかん部会の太良支部糸岐地区は、5集落21戸のみかん農家から構成されており、現在は2代目や3代目の農家が活躍している。

取組に至る経緯

糸岐地区内でのみかん栽培者の高齢化が進み、10年後20年度は耕作放棄地が増加してしまうことが予想される。今のうちから優良園を次世代へつないでいく準備が必要である。月1で開催している研究会にて地区の未来について話し合う機会を設け、後継者が魅力を感じる「稼げる農業」を目指して取組を行うこととなった。

課題に対する取組内容と成果



集落の声



「全国へおいしいみかんを届けるために根域制限栽培を導入した。糖度が上がればブランドみかんとして販売され、収益も増える」

「シャインマスカットを導入して収入が上がったのは素直に嬉しい。これを足がかりに、他にもチャレンジできそうなことが見えてきた」

今後の課題と対応

●優良園地を次の世代の担い手に集積していくには、今後も園地改造や省力化技術の導入が必要となっている。



基本データ

テーマ …… 産地活性化
 取組内容 …… 根域制限栽培の導入、みかんとシャインマスカットの複合経営
 特徴 …… 稼げる農業の実現に向けて新技術・新規品目にチャレンジ
 部会員数 …… 21戸(JAさがみどり地区みかん部会太良支部糸岐地区)



18

様々な課題に堅実な戦略で挑む

その他 嬉野市

概要

嬉野市は、佐賀県の南西部に位置し、塩田川、吉田川、鹿島川流域の平坦地域における農業と盆地を含む山麓・山間地における農業とに大別される。平坦地域では土地利用型農業を中心に施設・露地野菜との複合経営が主体となるが、施設野菜や施設花苗を重点に経営を行う農家も一部ある。一方、盆地を含む山麓・山間地においては、「うれしの茶」の銘柄で全国的に知られる茶を中心とした産地が形成されている。担い手の高齢化や減少が進み、農業・農地をいかに次の世代につなぐかが課題となっている。

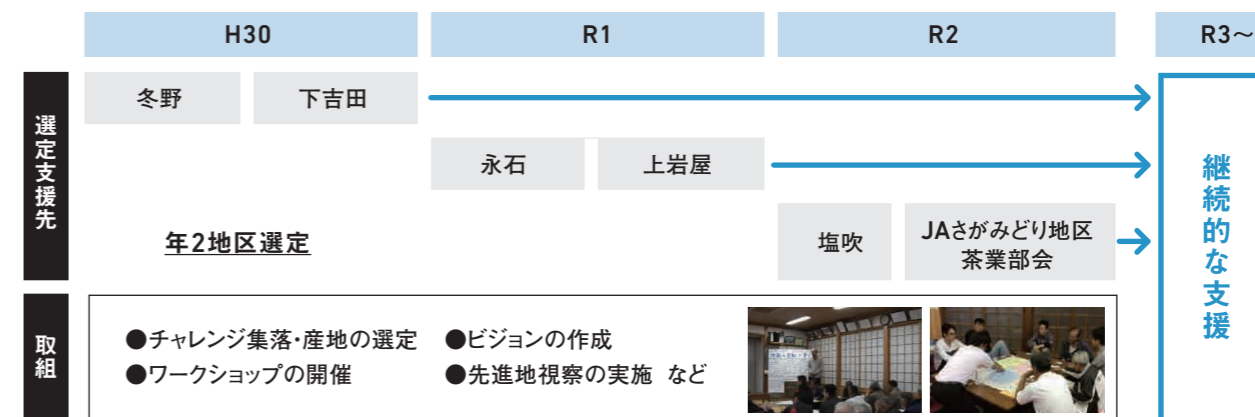
取組に至る経緯

平成30年度に「それぞれの中山間チャレンジ事業」がスタート。中山間地域における農業・農地の維持や農業所得の向上を図るため、県内でもいち早くチャレンジ集落を選定し、集落・産地における話し合いをもとにビジョンづくりに着手するなかで、地域を活性化するためには、農業だけでなく生活や環境、人づくりといった幅広い課題に取組む必要性を認識し、チャレンジ集落・産地での話し合いを県、JA、市が支援チームとして一体となって支援。支援には「それぞれの中山間チャレンジ事業市町推進チーム補助」を活用。

課題に対する取組内容と成果

1. チャレンジ集落・産地の選定・支援

農業・農地の維持や農業所得の向上に取り組むチャレンジ集落・産地をH30年度からR2年度にかけて、毎年度2地区ずつ選定し、話し合いやビジョンづくりを支援。



2. 専門家の活用

農山村地域経済研究所の楠本雅弘氏をファシリテーターとして招聘

3. 市独自の補助事業を開始

地域におけるビジョンの実践を後押し

4. チャレンジ集落交流会

それぞれの地域の課題や取組を共有

成果

- 5年間で6つのチャレンジ集落・産地が誕生し、将来ビジョンの作成とその実現に向けた取組が始まった
- 市独自の補助事業開始により地域での研修会や景観作物の播種など、ビジョン実現のための後押しにつながった
- 地域自らが現状や課題を把握・共有したことで、今後の取組の具体的な方向性を見出すことにつながった

今後の課題と対応

- ビジョンを実現に向けた実行体制の構築などの取組の後押し
- 地区のリーダーとなる人材の発掘・育成
- 選定した6つの地区の取組の市内への波及



19

楽しみながら、地域をサポート

その他 さが中山間協働応援隊／江里山蕎麦の会

地域の概要

天山山系の中腹に位置し、春は菜の花、秋は彼岸花があちこちに咲き、棚田の風景に彩を添える。標高250mに広がる棚田は約600枚を数え、日本の棚田百選、全国農村景観百選、22世紀に残す佐賀県遺産に選ばれている。

取組に至る経緯

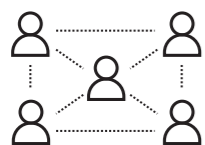
江里山蕎麦の会は、まちづくりを頑張っている仲間と一緒に「美味しいものを食べながらできる活動、意見交流の場が作れないか」と考えたことがきっかけで結成。平成17年に江里山集落で10aの耕作放棄地を耕すことからスタートした。はじめは美味しい蕎麦を食べるために行っていた活動だったが、年々増していく耕作放棄地の相談を受ける中で、蕎麦畑の栽培面積の拡大や除草作業のお手伝いなど農地保全サポートも行っている。

基本データ

テーマ …… 協働活動
 取組内容 …… 蕎麦の栽培、収穫、蕎麦打ち体験・農地保全のサポート
 特徴 …… 楽しむことが結果的に地域のために
 メンバー数 …… 25名

課題に対する取組内容と成果

小城市内各地でまちづくりを頑張っているメンバー



みんなで楽しみながらできる活動は何か？

あったらいいな…

- ・美味しいものを食べながらできる活動
- ・共通の話題で交流できる場

蕎麦を育てて、蕎麦打ちをして、楽しみながら美味しく食べよう！

取組内容

- 耕作放棄地を活用した蕎麦の栽培～蕎麦打ち体験
毎年1月の「新蕎麦会」にてみんなで蕎麦打ち・食事会
平成17年 令和4年
10a → 80a
耕作放棄地が蕎麦畑へ



- 集落でのボランティア活動
除草作業、ワイヤーメッシュの点検



- 「江里山たなだ部」のお世話役
小城中学校、牛津中学校、小城高等学校、牛津高等学校



“楽しむこと”が結果として中山間地域の保全活動につながった

地域の声



田中 正照 さん

「当初は美味しい蕎麦を食べたいというのが目的でした。草刈りのお手伝いや、耕作放棄地を活用することで微力ながら江里山のお役に立てて嬉しいです」

今後の課題と対応

- ビジョンを実現に向けた実行体制の構築などの取組の後押し
- 地区のリーダーとなる人材の発掘・育成
- 選定した6つの地区の取組の市内への波及



20

経験を活かし、地域と伴走

その他 ふるさと営農盛り上げ隊



概要

中山間地域において、「農業・農地の維持」や「農業所得の向上」に取り組むチャレンジ集落・産地が現状把握や課題解決に向けた活動を行う際に、協力していただける市町やJA・県の元職員を「ふるさと営農盛り上げ隊」として県が委嘱。隊員のこれまでの経験を活かしながら、市や県と連携して、地域での取組に対する助言・指導などを行っている。

主な活動実績

- チャレンジ集落での取組に対する助言
- 情報交換会、意見交換会、勉強会の実施
- 他の組織への働きかけ
- ビジョンの実践に向けた関係部署への情報収集

隊員の紹介



小出 繁夫 (佐賀市富士町) 県OB

- 県並集落におけるワークショップへの参加・支援
- 閑屋集落における棚田ボランティアの実施サポート 等



石田 幸弘 (佐賀市大和町) 県OB

- 名尾農業創生研究会での取組に対する助言、情報提供
- 名尾農業創生研究会での排水対策事業活用に向けてのサポート



小園 敏則 (多久市) 多久市OB

- 北多久の水田農業を考える会の会議への出席や打合せ
- 平野地区の指定棚田地域への指定に向けたサポート
- 帆船の里そば店開店に向けたサポート



川尻 光政 (有田町) 県OB

- 北ノ川内集落での話し合い参加、取組みに対する助言・指導
- センチビードグラスの他集落への吹付支援



原田 都巳子 (嬉野市) 県OB

- 市内のチャレンジ集落・産地におけるワークショップへの参加、取組に対する助言・指導
- 冬野集落における女性の会設立に向けての働きかけ、話し合い

原田 都巳子さんの取組

①嬉野市の支援活動のサポート

嬉野市ではチャレンジ集落が5地区、チャレンジ産地が1地区選定されているが、原田さんは、地元の冬野集落だけでなく、他の地区での話し合いやワークショップにも参加し、それぞれの地区の取組に対して助言・指導を行っている

打合せや情報共有

嬉野市との密接な連携

②冬野集落での取組

地元の冬野集落では女性の会の設立に向けて、R1年度から集落内での話し合いや働きかけを実施

- 女性の会「ほとめき会」を設立 (R4年度実施)
冬野集落に住む女性が、共通する楽しみや学びをとおして交流を深め、集落の活性化につなげることを目的としている
- 管理栄養士による食に関する勉強会の実施
- 交流を目的としたフリーマーケットの開催
- イノシシ対策に関する勉強会を実施



「それぞれの地区が何か1つのチャレンジをきっかけに、ビジョンの実現に向かって前に進んで欲しい。冬野集落では、今後全体で色々なことにチャレンジできるよう、ほとめき会がその原動力になれば」

